

らぼだより

02

421Lab.

地域共生教育センター

平成 26 年 4 月 1 日 発行

伊勢谷友介さん 来校!!

二月十六日(日)、北九州市立大学で第七回地域創生フォーラムが開催されました。当日は五百人以上の地域活動に関心のある人々が集まり、立ち見が出るほどの盛況でした。今回のフォーラムでは、俳優の伊勢谷友介さんと脚本家の亀石太夏匡さんのお二人を迎えての講演と、学生による地域活動の成果報告会が行われました。

講演では、伊勢谷さんと亀石さんが「人類が地球に生き残るためにはどうすべきか?」と言う命題のもと立ち上げた「リバースプロジェクト」についてのお話しを通して、これまでの私たちの生活がもたらした地球環境や社会環境の影響をもう一度見つめなおし、未来について考える時間となりました。



学生成果報告会では、それぞれのコースに分かれて発表を行いました。私たち地域共生教育センター、通称 421Lab.の教室では、北九スピリットプロジェクト、ファッショネットワークプロジェクト mArs、東日本大震災関連プロジェクトの三プロジェクトが日頃の活動の成果を発表しました。音声やムービーを使うなど様々な工夫を凝らして、各プロジェクトが今までの様な活動をしてきたのか、また今後の展望や目標などを紹介しました。発表者たちもお互いの活動の状況を知ることができ、「良い刺激になった」「自分たちも負けていけない」といった声が聞こえてきました。

地域創生字群 下田康之



会話の中で自分を見つける

二月十七日、十八日に 421Lab.の主催で振り返り講座が行われました。このプログラムには、プロジェクトに参加している学生約四十名が、各々の活動の枠を越えて参加しました。

講座はグループワークを通して行われました。この研修の目的は自分をより深く知ることです。自分を知るためにグループワークを行うことは一見矛盾しているように見えますが、学生として学ぶ時でも、社会人として仕事をする時でも、チームで取り組むほうが、はるかに成果が上がる。という事実があります。そして、その時に大切なのは、仲間と情報を共有し、コミュニケーションを取ることになります。従って『自分を知る』ことに深く結び付いていると言えるのです。こういったファシリテーターの方の説明を聞いた学生たちは、みなグループに与えられた課題に協力して取り組んでいました。初めは慣れない状況やあまり話したことの無いチームメイトに緊張気味だったメンバーたちでしたが、二日間のプログラムが終わる頃にはすっかり打ち解けて話が止まらないほどでした。

この機会を通して、異なるプロジェクト同士が交流をさらに深め、次なる活動に繋がっていくことを期待できそうです。



(外国語学部 緒形かおり)

東日本大震災関連プロジェクト～震災から3年経った今～

三月八日から三月十五日の約一週間、今年も二十四名の東日本大震災関連プロジェクトのメンバーが宮城県南三陸町に赴きました。

今回の派遣では半年前の第五次派遣に引き続き、小学校での児童との交流や仮設住宅の人々との交流をメインに行いました。

前回の派遣の時に被災地の小学校で行った授業がとても好評で、今回は小学校側からリクエストを受け活動時間を拡大して二時間の授業を行ったそうです。北九州市が環境未来都市であることにちなみ、環境に関する授業を行いました。ペットボトルを再利用しておもちゃを作ったり、ペットボトルのリサイクルの仕組みや、北九州市の公害を克服した歴史などについて伝えました。メンバーの一人に感想を聞くと、「授業後に小学校の先生から「また来てください」と言ってくることが嬉しかったです。これからも続けていく予定です。」と今後の意気込みを語ってくれました。

仮設住宅に住む人々とは、半年前に引き続き二回目となる郷土料理教室を開催して交流しました。

昨年はたらし餅などいくつかの東北の郷土料理を教えてもらい、「何かをしてもらうことも嬉しいけど、何かをしてあげるのもっと嬉しい」との言葉を頂きました。そこから発展して、今回は今までの活動のお礼も含めて震災メンバーが小倉発祥の焼うどんの作り方を教えたり、

「焼き餅を焼いて半殺しにする」という新たな東北の郷土料理を教えてもらったりしました。現地の人たちと交流する中で、「孫が帰ってきたみたいで嬉しい」という言葉や「久しぶり」と言ってくれて、関係が深まっていると感じました。

震災から三年が経ち変わったと感じることは、「瓦礫撤去などの体力仕事から、人と人が繋がる心の関係になったと思う」とリーダーの古小路さんは語ってくれました。ただ、南三陸町の住宅地のすべてにかさ上げの必要があるため、復興にはまだ時間がかかることが予想されます。これからも長期的な支援が必要だと感じています、とも話してくれました。

私達に出来ることなんてほとんどなくて学ぶことばかりだけれど、それでもずっと関わっていききたい。ずっとこの活動を続けていきたい。

『続ける』ことの意義を改めて噛み締め、東日本大震災プロジェクトメンバーの活動は今日も続いていきます。

(地域創生字群 奥村美帆)



卒業おめでとう 祝賀会

三月二十二日に卒業生へ向けて祝賀会が開かれました。二十三名のスタッフを中心に、421Lab.は運営側として祝賀会を主催させていただきました。

よさこいサークルの灯炎、ダンスサークルのBring On、そして吹奏楽団の三サークルが踊りと演奏で場を大いに盛り上げてくれました。また、今年はお笑い芸人のルームメイトさんの軽快な司会により、新たな魅力を盛り込むことができ、卒業生のみなさんにはたくさんの思い出を作ってもらうことができましたと感じています。

「昨年の十二月末から準備を始め、当日まで約三ヶ月間。今までやってきたことの集大成として、この祝賀会を本当に最高のものにするのができても光栄です。」と、祝賀会チームリーダーの相見さんは答えてくれました。

また、運営面で多くの改善点に気付くことができたので、来年度は更に良い祝賀会を開催できるよう努力していきたいとの声もありました。

卒業生の皆さん、本当にご卒業おめでとうございます。

(外国語学部 緒形かおり)

